



体験から豊かな学びへ

校長 古屋 澄人

あけましておめでとうございます。今年の横浜の元旦は雲ひとつない晴天に恵まれました。私がよく出向く近所の初日の出スポットから初日の出を拝むことができ、朝日が富士山を明るく照らす風景を見ることができました。

昨年12月に行われた「OKフェスタ」では、感染症対策の一環として学年別の開催としましたが、多くの保護者の皆様に参観していただきました。ご理解とご協力に感謝申し上げます。

「OKフェスタ」は、生活科と総合的な学習の時間（「総合」）を中心に、日頃の学びから考えたことや思いや願いを相手意識をもって自分の言葉で伝えることを目的としています。6組は「やさいまつり」をテーマに、1年生は、「秋」をテーマに、2年生は、身近な材料を使ってのおもちゃづくりをテーマにした取り組みでした3年生から6年生は、クラスによって「総合」のテーマが違います。自分達の思いが伝わるように発表の内容も方法もクラスで工夫する「OKフェスタ」は、本校の特色ある教育活動の一つです。

学習方法と平均学習定着率の関係は「ラーニングピラミッド」（アメリカ国立訓練研究所）という図で表すことができます（右図参照）。この図を見ると、グループで討議したり、自ら体験したり、相手に教えたりすることで定着率が高くなることがわかります。

2年生の取組では、子どもが「これはゴムの力、これは風の色、これはばねの力で動くんだよ」と実際に実物を見せながら動くおもちゃの仕組みを説明していました。生活科の学習を通して、力の概念についての見方を働かせていることがわかります。野菜の栽培活動に取り組んだ学年の子どもたちは、自分たちで育てて収穫した野菜を展示して、体験を通して学んだ栽培することの苦労や収穫の喜びを自分の言葉で自信をもって語っていました。他の教室でも自ら調査したりフィールドワークしたりしたことを自分の言葉で文章に表し、聞いている人にわかりやすく伝えている活動が多く見られました。

子どもたちが主体的に能動的に学ぶことはいつの時代であっても大切にしていることです。今後も、体験したことをもとに深く考え、適切に判断し、わかりやすく表現する教育活動を進めていきます。

今年は寅年。特に今年の壬寅（みずのえとら）には「成長」や「始まり」という意味もあるそうです。制限のある生活が続いていますが、令和4年は、新しい日常が「始まる」年、そして折本小の新しい芽が「成長する」年にしていきたいと思えます。本年も本校の教育活動にご協力をお願いいたします。

